

顔・からだバランスケア お口の健康を保つために

藤橋歯科医院・株式会社ジョルノ／安生朝子



A4判変／40頁
定価 2,940円
(本体 2,800円＋税 5%)
医歯薬出版刊
(2010年3月発行)

「長年にわたる患者さんとのおつきあい」が見えなかったことや気がつかなかったことを教えてください。

歯周組織検査時に部位特異的に歯肉退縮を認める方、メンテナンスでの経過観察中にプロービング値が深くなった方、また、長年健康な方でも「歯が痛い」と急患で来院されるときがあります。以前、私はこれらの口腔内の変化は患者さんのブラークコントロールに問題があり、それが原因で発症していると考え、再度口腔衛生指導を行い、歯周組織検査を行っていました。

ある日、患者さんと歯科医師がここ数カ月間で起こった咬み合わせの変化とその原因について話し合っていました。「尻もちをついた」とか「新車を買ったため緊張しながら運転している」などの会話は、一見歯科治療と無関係のように思えますが、私はその内容に関心をもちはじめました。

いまから15年ほど前、故・筒井昌秀先生と筒井照子先生の講演会を受講した私は、大

きなショックを受けました。そのわけは、歯科衛生士としての「感染症のコントロール」はできても、“力をみる”臨床観が自分に欠けていたこと、そのときすでに筒井歯科医院では歯科衛生士による「力のコントロール」が行われていたことを知ったからです。個々の患者さんには生活習慣の違いがあり、さらに加齢という時間軸のなかでさまざまな変化が起こります。歯の痛みや顎位の変化、咀嚼時の違和感の原因が「態癖」（頬づえや不適切な睡眠姿勢などの口腔内に悪影響を及ぼす生活習慣のこと）からくるものであるのなら、患者さんに近い位置にいる私たち歯科衛生士がそれに「気づく」ことが大切です。

歯周基本治療の開始時にみえること、気づくことが多くなれば、その分だけ患者さんの病気の原因と優先すべき治療の方法（炎症のコントロールを行うべきか？力のコントロールを行うべきか？）が明確になります。また、メンテナンスでの「個体の変化の先読み」は、その後のメンテナンス時の検査事項や来院間隔を決めるうえで参考にしたいいものです。

このたび発刊された本書は、患者さんの全身を見て口腔内の問題を読み取るためのバイブルであり、患者さんの情報収集するための知識が豊富に盛り込まれています。そして、治療経過が患者さんの顔写真とともに掲載された、たいへん貴重なものです。

歯科衛生士業務において「全身」への着眼点を身につけることが必要と考えた方に、ぜひお手元に置いていただきたい一冊です。